CASE 04

日興フーズ株式会社
NIKKO FOODS CO., LTD.

INTRODUCTION

東南アジア等の提携農園でライチやマンゴー、ドラゴンフルーツなどの果実を現地工場で加工処理し、日本への輸入・卸売を手掛ける日興フーズ。イーサポートリンクの輸入青果物在庫受払管理システム「Stock Link」をいち早く導入し、これまで手書きの帳票とFAXに依存していた青果物の受発注・在庫管理業務のデジタル化に取り組む同社に、システムの効果と今後の展望についてお伺いしました。

「手板」のデジタル化を実現、リモートワークも可能に

2006年の創業以来、一貫して主に東南アジア産のトロピカルフルーツの現地生産・加工、日本への輸入・卸売を手掛け、順調に成長を続けて参りました。国内の多くの量販店様とお取り引きいただいていることもあり、特にタイ産マンゴーは国内市場の約4割、ドラゴンフルーツは約7割のシェアを占めるまでに取扱量も増えています。また、独自の減圧加工技術をいかした「干し芋」や天然の樹上乾燥の「デーツ」など栄養価の高い生鮮加工品の製造・輸入にも力を入れており、最近では青果と同程度にまで売り上げを伸ばしています。

このように順調に業務が拡大していく中で、大きな課題となっていたのが、在庫出荷業務の効率改善です。青果物は産地や天候によって出荷量や価格が変動するため受発注のデジタル化は難しいとされ、当社でも、在庫出荷業務は昔ながらの「手板」と呼ばれる手書き帳票とFAXによる方法に頼らざるをえない状況でした。1枚の手板を複数の担当者で共有して受発注の数や価格を手書きで記入し、それをもとに経理担当者が請求書を作るというアナログな方法なので、手間暇がかかる上に、どうしても記入漏れや計算ミスが起きてしまうこと、さらに手元に「手板」がないと業務そのものが進められないため、コロナ禍のような非常時にリモートワークができないことにも問題意識をもっていました。なんとかデジタル化できないかと模索しましたが、一般的なソフト開発会社では

トロピカルフルーツを中心に20種類近くを輸入。栽培から加工、出荷まで産地管理を徹底※

輸入青果物流通業界の仕組みや商習慣についての基礎知識がないため、意思の疎通が難しく、希望するようなシステムの開発には至りませんでした。

そこで、共通の知人を介して相談したのがイーサポートリンクです。イーサポートリンクには輸入青果物、特に輸入バナナのサプライチェーンシステムで培ったノウハウがありますし、実際にシステム開発の担当者と話してみると、輸入青果物はもちろん生鮮物流全体に深く精通していることがわかり、私たちが抱える悩みについても深く理解してくれたため、安心してシステム開発をお願いすることができました。開発にあたっては当社の意見や要望に柔軟に対応してくれ、結果として非常に使い勝手の良いシステム「Stock Link」が完成しました。

「Stock Link」の最大のメリットは、いつでも・どこでも在庫出荷情報の管理ができること。タブレット端末とネット環境さえあれば、時間や場所を選ばず最新の情報を確認・入力できるので、これまで当社では難しかったリモートワークが可能になりました。また、管理画面を従来の「手板」と同じフォーマットにしてもらったため、これまで紙に手書き入力していた担当者にも抵抗なく使い始めることができ、スムーズに業務のデジタル移行ができた点にも満足しています。また、納品書や配送依頼書がPDF出力でき、倉庫や運送会社との連携もスムーズになり、社内の経理との連携もスムーズになってミスが減るなど、業務効率改善に確かな手ごたえを感じています。

おいしいフルーツと野菜で日本の食をもっと豊かに

とはいえ、当社にとって「Stock Link」の導入はゴールではなく、あくまでも「安全・安心・美味しさの感動を、食卓に届ける」という目標達成のための第1歩に過ぎません。目下、当社では青果の輸入・卸に加え、生のフルーツや野菜を手軽に家庭で楽しめる冷凍スムージーや、加熱するだけで野菜の旨味が味わえるカット野菜料理キットなど、新鮮なフルーツや野菜を家庭で手軽に摂取できる新たな加工食品の製造・販売に注力すべく、準備を進めています。若者のフルーツ離れ・野菜離れが進む中、こういった手軽な加工食品を通じてフルーツや野菜の美味しさを知ってもらい、最終的に新鮮な果物や野菜を日常的にもっとたくさん食べてほしいと願っているからです。折しもイーサポートリンクも今、単なるシステム開発の粋を越えて、地産地消の促進や有機野菜市場の拡大、持続可能な農業を目指す農家支援など生産者と物流、小売、消費者をつなぐ架け橋として、様々な取り組みを本格展開していると聞いています。これからも両社で互いの知見とノウハウを共有し、日本の青果物流通ひいては日本の農業や食文化のより良い未来のために、力を合わせて挑戦し続けたいと願っています。

「業務効率の改善に確かな手ごたえを感じる」と語る
日興フーズ株式会社　代表取締役社長　佐々木宏二氏

※写真は日興フーズ株式会社より提供